

小学校教科担任制 Q & A



令和3年度小学校教科担任制推進協議会において、多くの学校から聞かれた質問について、教科担任制推進校の実践を参考にしながらお答えします！

Q1 小学校教科担任制により、学力が向上しますか。

A1 複数回の授業実施、専門性のある教員による指導等により、指導方法の工夫改善が図られています。指導教科数が削減されたり、空き時間が増えたりすることで、教材研究が深まり、指導の工夫につながります。ただし、教科担任制を取り入れただけでは学力向上にはつながりません。これまでの指導でも大切にされてきたように、教員がお互いに連携し児童理解に努めたり、自身の指導を振り返って次の指導に生かしたりすることは、学力向上を目指した授業改善には欠かせません。令和3年度の事業では、空き時間を利用して日常的にお互いの授業参観を行い、指導力を高め合う取組の報告もあります。

Q2 担当教科はどのように決めますか。

A2 教員の専門性を生かすために得意な教科を指導することが考えられます。また、令和3年度の事業では、専門ではない教科の担当になったとしても、複数回授業を行うことにより、その教科の指導力が向上し、自信をもって指導ができるようになったという報告があります。

Q3 時間割はどのように調整しますか。

A3 まずは、動かすことが難しい交流学級の指導や特別教室を利用する教科の時間から決めて、高学年の時間割から優先的に決めていく方法があります。また、時間割のパターンをいくつか作っておき、それをベースにして調整していく方法もあります。いずれにしても、推進教員が中心となり、教務主任や学年主任等と連携し、学校全体のバランスを考えながら時間割の調整を行うことが大切です。

Q4 保護者への周知をどのようにしますか。

A4 学校だよりや学級通信等を使って、年度初めに保護者に周知したり、授業参観日に担任ではない教員の授業を公開したりするなど、積極的に発信しています。専科による指導で学習をしている子供たちの声や写真等を継続的に紹介していくと、保護者は安心するようです。

Q5 高学年児童への説明をどのように行いますか。

A5 年度初めに、なぜ教科担任制を進めていくか、どのように進めていくかということを中心にオリエンテーションで説明します。「学力向上」「児童の多面的理解」「中学校への接続」について、令和3年度の実践事例等を参考にして、児童に分かるように具体的に説明すると、児童も安心できるでしょう。

Q6 高学年会議では、どのような内容を話し合いますか。

時間割の調整、児童の授業での様子、特別な配慮が必要な児童についての連携、評価規準について等の話をします。また、高学年会議の時間以外でも日常的に情報の共有を行うことで、指導に関わる教員がチームワークを発揮します。これにより、高学年の指導が初めての教員や指導の経験が浅い教員も安心して授業や生徒指導に取り組むことができます。

Q7 宿題はどのように出しますか。

A7 令和3年度の事業では、提出された宿題を学級担任が見る学校と、教科担当教員が見る学校がありました。教科連絡係を決め、児童が教科担当教員に宿題を聞きに行って、連絡ボードに記入するなどの実践も紹介されました。指導の効果を上げ、教員の負担となり過ぎることのないように、児童の実態に応じて、年度の途中で見直すなど、柔軟に考えるとよいでしょう。

Q8 年度初めの指導ではどのようなことに気を付けるとよいですか。

A8 授業を担当する教員の間で、学習ルールを再度確認しましょう。令和3年度の事業では、高学年の教科担任制を進めることをきっかけにして、学習ルールを全教職員で見直し、高学年だけの取組とするのではなく、学校全体の取組となるように工夫をしている学校もあります。